

第62回 東ヨーロッパ世界

1 スラヴ人について

・()は、()の北方を現住地として現在の東ヨーロッパに多く住む民族であり、大きく西・南・東スラヴの3つに分けられる。

<西スラヴ人> ※多くが()を受け入れた。

・()は、カジミェシュ大王のもとで繁栄した。

・14世紀、ドイツ騎士団に対抗して()と合併した。

→() (リトアニア=ポーランド王国) が成立した。

→15世紀にドイツ騎士団を破り、ポーランド最盛期の王朝となった。



カジミェシュ大王
ポーランドの英雄。都に
クラクフ大学を設立した。

・()は、9世紀にモラヴィア王国、10世紀に()
を建国したが、11世紀には神聖ローマ帝国に編入された。

・スロヴァキア人は、チェック人に近い民族でありマジャール人の支配を受けた。

<南スラヴ人> ※()に多く住む。

・()は、ギリシア正教を受け入れてセルビア王国を建国した。

→14世紀、オスマン帝国にコソヴォの戦いで敗れて併合された。

・()とスロヴェニア人は、ローマ=カトリックを受け入れた。

・トルコ系の()は、7世紀に()を建国した。

→ギリシア正教を受け入れて、スラヴ人と同化していった。

→ビザンツ帝国に併合され、独立したが14世紀にオスマン帝国に併合された。

<東スラヴ人>

・()、()、ベラルーシ人などが中心。

→スウェーデン系ノルマン人が9世紀に侵入して、()や

()を建国した後、スラヴ人と同化した。



リューリク
ノヴゴロド国の建国
者。第56回に登場。

<その他の民族>

・ラテン系の()はダキアにワラキアとモルダヴィアを建国した。

・ウラル語系の()は、9世紀にパンノニアに定住した。

→10世紀にヨーロッパに侵入するが、955年に東フランク王国の

()にレヒフェルトの戦いで敗れた。

→ローマ=カトリックを受け入れて()を建国した。

→1526年、モハーチの戦いでオスマン帝国に敗れ、事実上消滅した。



マーチャーシュ1世
15世紀のハンガリー最
盛期の王。めちゃくちゃ
優秀な王だが、入試に
は全く出ない…。

2 ギリシア正教会の布教

- ローマ教会（カトリック）と対立していたコンスタンティノーブル教会（ギリシア正教会）は、スラヴ人に対して積極的な布教を行っていた。

- 989年、（ ）の（ ）はビザンツ帝国皇女と結婚し、ギリシア正教に改宗した。
→進んだビザンツ文化がロシアに流入した。
→ロシア地域は、西欧とは別の文化圏となっていた。



ウラディミル1世

キエフ公国は、彼の時代に最盛期をむかえた。キリスト教徒になる前は、数百人を超える愛人がいたらしい。



キエフのハギア=ソフィア聖堂

ビザンツ帝国の協力によって、1037年に建設された。同じ名前の聖堂が、コンスタンティノーブルにあることに注目。

11世紀の東ヨーロッパ



- 正教会の宣教師キュリロスは、ギリシア文字をもとに作ったグラゴール文字を、スラヴ人の間で普及させた。
→この文字から（ ）が発展し、現在もロシアなどで使われている。

3 モンゴルの侵入

- その後ロシア地域では農民の農奴化と貴族の大土地所有が進み、国内は分裂した。
- 13世紀、モンゴル帝国の（ ）によるヨーロッパ遠征が行われた。
→1241年、（ ）でドイツとポーランド連合軍が大敗した。



バトゥ

チンギス=ハンの孫にあたる。優れた軍事力で広大な地域を征服した。敵には容赦なかったが、部下には優しくした。

- ☆（ ）（ジョチ=ウルス）（1243～1502年）
- ◆バトゥ（在位 1243～1256年）
 - ヨーロッパ遠征を行い、1243年、ロシアにキプチャク=ハン国を建国した。
※このモンゴル人による支配を、「 ）と呼んでいる。
- ☆（ ）（1325年ころ～16世紀）
- ◆（ ）（在位 1462～1505年）
 - 1480年、キプチャク=ハン国から完全に独立し、モンゴルの支配から脱した。
 - ビザンツ帝国の皇女ソフィアと結婚していたことから、（ ）を自称し、孫のイヴァン4世の時代には公式に使用した。
→モスクワは「第3のローマ」として、ギリシア正教会の中心となった。



ワールシュタットの戦い

ワールシュタットとは、ドイツ語で「死体の山」という意味。地名をとって、リーグニッツの戦いとも呼ばれる。左のモンゴル兵が、戦死したポーランド王の首を槍に刺して、城を攻めている。



イヴァン3世

妻ソフィアは、ビザンツ帝国最後の皇帝の姪であった。そのため1453年のビザンツ帝国滅亡後は、ビザンツ皇帝の後継者を自称した。第101回へと続く。



聖ヴァーシリー聖堂

ビザンツ帝国が滅亡したため、ギリシア正教会の中心地はロシア正教会があるモスクワへと移った。ちなみに「第2のローマ」はコンスタンティノーブルである。